

平成24年3月修了
修士(工学)学位論文

公共工事執行システムにおける現状課題の改善に向けた
コンサルタント技術者の新たな役割

The expected roles of consultant engineers aiming at an improvement
of the present condition subject in public-works implementation system

高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻
社会システム工学コース

学籍番号 1145127

中岡 正
Tadashi Nakaoka

第1章 序論

1.1. 要旨（研究の背景と目的）

1990年には約85兆円あった建設投資が2020年には40兆円を切ると予想されるように建設産業を取り巻く経済環境は極めて厳しい状況である。特に中小建設業などの工事受注量はかつての売り上げの半分以下となり厳しい経営状況に陥っている。また公共事業の是非が問い直される中、公共事業のあり方そのものを見直す動きも活発であり、発注者としての役割についても大きな変革が求められている。さらには、連日マスコミが取り上げる公共事業に関する不祥事により、「変わらなければならない」という危機感強く、産学官など各種方面において様々な取り組みのもと、公共事業に関する今後のあるべき姿を模索する活動が盛んに行われている。

本研究では、我が国においては緊縮財政が今後も継続することは避けられない現実としても、建設産業に係る人間（発注者・受注者[建設業者、コンサルタント]）が高いモチベーションのもとで大きなやりがいと誇りを持って職責を果たすことができるように、業界体質改善を目指した公共事業における今後のあるべき姿について考えた。

研究内容としては、現行の公共工事執行システムに係る課題を国土交通省の現役職員へのアンケート等より明らかにしたうえで、プロジェクトマネジメントの視点（特に、タイムマネジメント・コストマネジメント・コミュニケーションマネジメント・リスクマネジメント）からの改善方策と発注者支援の視点から建設コンサルタント技術者が果たすべき役割について具現化した。

筆者は、建設コンサルタント会社で約20年間に渡り、主に道路計画設計に従事してきた。平成13年度より3年間は国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所の調査課へ出向し、発注者の立場で計画調査設計業務に携わった。さらに、平成20年度より国土交通省の複数事務所において公共工事執行監理支援業務の管理技術者として携わっている。

筆者はこれらの経験の中で、発注者起点の公共工事執行システムについて改善の必要性と可能性を感じてきた一方で、多くの建設産業に係る方々も同様の問題意識を持っていることに関心を持つようになった。さらにはパラダイムシフトの渦中のなかでモチベーションを失いつつある国内の建設産業全体の底上げのために、建設産業に係る全ての人間がやりがいと誇りを持ったWin-Winの状態になれるように公共工事執行システムの改善方策ならびにコンサルタント技術者の役割について提言することとした。